

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100022		
法人名	岩手県高齢者福祉生活協同組合		
事業所名	岩手高齢協ほっともとみや(2F)		
所在地	〒020-0866 盛岡市本宮6丁目14-12		
自己評価作成日	令和6年12月15日	評価結果市町村受理日	令和7年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・一人一人の希望、出来る事を職員と一緒に実現出来るよう支援している。 ・一緒に衣類の買い物に行ったり、本屋で本を買ったり、コーヒーを飲みに行ったり、皆でお寿司を食べに行ったり、出来る範囲でご希望を叶えている。壁飾りを作ったり、干し柿作りをしたり季節を感じてもらえるようにしながら出来ることに取り組み達成感を味わっていただき、笑顔の多い日常を過ごして頂いている。 ・医療関係機関等と連携を図り利用者様の急変時の対応やほっともとみやで最後まで安心して過ごして頂けるよう看取りにも力を入れている。 ・利用者様が喜び楽しんで頂けるよう季節行事の内容にもこだわり、工夫し提供している。 ・利用者様の残存機能を最大限に活用出来るよう工夫の提案を常に行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、盛岡市の西南部の住宅地に位置する2階建ての2ユニットである。周辺には市立病院や医院、介護施設などがあり、医療と福祉、介護との連携は既に出来上がっている。「和・輪・話を大切に毎日笑いのある楽しい生活を目指します」とする理念を掲げ、利用者一人ひとりの思いに応えようと取り組んでいる。重度化、看取りの対応においても、訪問診療、訪問看護と連携し多くの看取りを経験している。地域とのつながりも区長、民生児童委員、大家さん、地域の住民の皆さんとの協力関係ができており、災害対応訓練の協力も得ている。また、個人面談や職員アンケートを通じ、提案や要望、勤務状況、資格取得の希望等を把握し、職員の資質の向上やより充実した介護サービスの提供に努めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

「評価機関・特定非常利活動法人 いわての保健福祉支援研究会」

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協ほっともとみや(2F)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を施設内リビングに掲げ目標も表示し、共有・実践につなげている。「和・笑・輪」通信や会議資料等にも表示し共有している。	開設当初からの理念『「和・輪・話」を大切に毎日笑いのある楽しい生活を目指します。』を掲げ、利用者一人ひとりに寄り添いながら利用者の支援に取り組んでいる。今年は更に3ヵ月毎の目標を立て振り返りを行いながら、実践がより理念に沿ったものになることを目指している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の方への日常の挨拶を交わしている。地域の農家さんからお米を購入。地域の絵本読み聞かせボランティアに月1度来て頂いている。	町内会に加入し、回覧板も回って来ている。大家は地域に顔が広く、いろいろな面で協力を頂いている。地域のシェイクアウト訓練や、花壇の整備にも参加し、挨拶を交わすなど繋がりをもちながら生活している。また月1回訪問する絵本の読み聞かせボランティアを受け入れる等、地域と日常的に交流を続けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市のオムツ支給の引き取りを利用者のご家族の代わりに施設で出向き地域の老人福祉センターで引き取りの際、職員の方々やセンターを利用されている地域の方々にオムツ支給の需要や必要性を理解して頂けるよう挨拶、会話をしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、ご家族様や、時には利用者様にも参加して頂き、状況報告をしたのち意見を頂きサービス向上に生かしている。(参加した利用者様が体調を崩された時に職員の対応を見て関心して頂いた。)	2ヵ月毎に参集で開催し、市の担当課を始め、町内会長、民生児童委員や利用者家族に委員になっていただき、時には利用者も出席している。会議では、事業所の取り組みや利用者の状況を報告し、委員からは地域の情報や感染症対策などについての助言や提案を頂き、サービスの質の向上に活かしている。	利用者代表を運営推進会議の委員として位置づけ、特定の利用者に固定することなく参加する方法について検討されることを期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、状況を把握して頂いています。生活福祉課と連携により生活保護受給者への支援、地域福祉課指導監督係に業務上の取り組みを伝えながらアドレスを頂いている。	市からはメールや電話で行政情報を得ているが、市の担当課職員が運営推進会議に参加している事もあり、その場で情報や助言、指導を頂いている。生活保護受給者への支援、要介護認定申請、外部評価報告書提出などの際には、直接担当課に出向き相談するなど、協力関係を築いている。		

令和 6 年度

事業所名 : 岩手高齢協ほっともとみや(2F)

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を活用し、資料を通し共有。日々気づけるように職員間でケアの確認を合っている。玄関の施錠は夜間のみ行っているが、地域の交番より安全のため施錠をして欲しいと話がありました。	3ヵ月毎に身体拘束廃止委員会と虐待防止の委員会を開催し、身体拘束や虐待の防止等に取り組んでいる。また、スピーチロックを含めたテーマの勉強会やミーティング検討会を年に7回程度実施し職員間で理解を深めている。特にスピーチロックについては、気づいた時にはその場お互いで注意し合っている。家族の了解のもと、2名の利用者が転倒予防のために足元センサーを使用している。玄関の施錠は、防犯のため夜間のみとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会を活用し、資料で確認しそれぞれの職員が自覚を持ち声を掛け合い虐待がないか充分に注意を払っている。ストレスから虐待行為にならない様に管理者がスタッフの心のケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援が受けれるのかなどを調べ、手続きを行なったりしている。成年後見人制度についても利用されていた方がいらしたので理解し活用できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い理解を得、現状を見ていただき、再び説明、理解、納得のうえ入所して頂いている。お亡くなりになられた際にも、その時に応じた説明をし不安なことはその都度説明をすることで、安心して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に、ご家族様も参加して頂き、意見をいただいている。施設内にご意見箱を設置している。面会、受診時など来所時にも意見を頂きケアプランなどにも反映させている。	家族からの意見や要望は、面会時や通院同行で来所された際に伺うようにしている。要望や意見などで大事なものは、職員会議で話し合い職員間で共有している。定期的に発行しているほっともとみや通信「和・笑・輪」は、利用者の日常が分かったと家族に好評である。利用者からは食べ物や外出の希望が多くあり、出来る限り対応している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協ほっともとみや(2F)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや、ミーティングの他、日頃から職員一人一人の意見や、提案、不安を話して頂くように聞く機会を設けている。職員の思いを本部との会議の際に伝えてはいるが、反映までは難しい。	日々の業務の中やカンファレンス、全体ミーティングの機会や職員アンケートを通じ、職員個々の意見や要望、困っている事、不安等を把握し、必要と思われる案件については、本部に上げている。事業所の業務については、職員間で話し合いサービスの向上に努めている。管理者との個人面談を年1回実施し、個人的に会話できる関係作りをしている。資格取得のための研修は、有給対応としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の体調、体力に応じてえ夜勤の有無、労働時間の調整を行い、働けるよう職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら実務者研修などの研修を受けて頂いた。研修を受けれるように、優先的にシフト調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近所の同業者の見学受入れ、同業者同士の交流を2か月に1度のペースで行い、お互いの情報交換にてサービスの質の向上に繋げている。(利用者様の入居案内など)		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の様子を見ながら傾聴し、何に困っているのか、何が不安なのかを早くに気づけるようにしている。ご家族様にもその様子を伝え、情報を聞きとり、小さな事も見逃さないようにしている。言葉に表せない方にも声をかけ表情などを見て信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設見学をして頂き、本人、ご家族様の要望を聞き取り不安に耳を傾け信頼関係を築くように努めている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協ほっともとみや(2F)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族様の希望を聞き、今必要な事を見極めてプランへ反映させている。往診サービスの提案もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活しながら、モップ掛け、テーブル拭き、洗濯物たたみ、トレイ拭きなど行い、お互いを支え合い本人の励みにもなるよう信頼関係を深めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	携帯電話を所有している方もおり、いつでもご家族や友人と繋がりを持てる。面会規制の時には状況の変化は常に報告し、LINEで、写真を送ったりLINEでTV電話をしたり喜んで頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	携帯電話で連絡をして頂いている。ご家族様の了承の下、面会も可能にしている。	利用者の高齢化により近所の方や友達、馴染みの方で訪れる人は殆どいなくなっている。利用者は病院受診時に家族と外食をしたり、自宅に戻って食事をしたり、家族と一緒に墓参りをしている。ボランティアで毎月1回来所する絵本の読み聞かせの方や、2、3か月おきに来所する美容師が馴染みとなっており、関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフと共に制作レク活動に取り組み苦手な方にはスタッフが傍につきサポートし嫌な思いをすることがない様にしている。利用者同士の関係性等を考慮し席を変えたり、利用者同士の会話にもスタッフが間に入りコミュニケーションを取れる様支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族様から、「あの時沢山お世話になった、ほっともとみやさんへ」と連絡を頂き、寝具類やタオルの寄付を沢山頂いた。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協ほっともとみや(2F)

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々生活の中での会話から希望を汲み取り、その希望を叶えるためには、どうしたら良いかを日々相談し、可能な限り希望や意向を受け入れている。(お寿司を食べに行ったり、衣類を買に出掛けた。食べたいおやつの提供。)	日々の会話の中から思いや希望を聞き取り、叶えるために職員間で話し合い、希望に添えるよう努めている。2階には重症化し、思いを話せなかったり、伝えられない方が多い事もあり、表情やしぐさから意向等を汲み取って支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に情報収集しているが、入居後に、日常での問題点をご家族様に相談、報告することで「自宅でもそうでした」と後々に知ることがとても多く、ご家族は大したことではないと思いがちだが些細なこともしっかり把握出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自宅などでの情報も事前に収集し、ほっともとみやでの生活のADLなどの状態を日々職員間で確認し合い、チャート記入をし共有出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中での変化に直ぐに気づきスタッフ1人の意見ではなく、スタッフそれぞれの意見や視点から課題とケアを見つけ様々なケアを試し、主治医、ご家族様の意見も聞き、リスクも考えた上でプランを作成している。	居室担当制は取らず、職員全員で利用者をモニタリングし、3ヵ月毎の見直しの際にカンファレンスを行っている。介護計画は、医療関係者や家族の意見等も加味し、計画作成担当者が作成している。介護度の変更や体調が変化した際には、改めて計画を見直している。作成後は、利用者に説明し家族には面会時や病院受診で来所した際に確認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	チャートへの記入、情報の引き継ぎ、連絡ノートの活用、職員用のLINEも活用し情報を共有し実践出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状態に応じ体調の変化などで食事形態を変えたり、食器などを変える事で自力摂取していただいたり、急変時には受診の対応も行っている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協ほっともとみや(2F)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	来所して下さる訪問美容室の方へ、本人の希望に沿ってカットして頂いている。敬老会にはスコップ三味線の方を招待し一緒に演奏に加わったり、忘年会では中川愛子社中の歌も一緒に歌い楽しんで頂いた。(お弁当も手作りでとても喜ばれた)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後の状況によりかかりつけ医の受診から訪問診療への切り替えの切り替えの支援を行った。ご家族様だけでは伝え切れない様子を職員が受診することで適切な医療を受けられている。	かかりつけ医の受診は、家族が付き添いバイタルチェック表を持参している。また適切な治療が受けられるよう、事業所から事前に医療機関に生活状況を説明している。家族が付き添い出来ないため、かかりつけ医受診から月2回の訪問診療に切り替えた利用者も多い。訪問看護ステーションの看護師が週1回、月曜日に来所した際に情報提供と助言を得る事ができ、職員は安心して業務に従事している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の定期訪問の他、24時間対応して頂いて、指示を仰いで頂き、主治医へ繋いでいただいている。利用者様の様子も共有の用紙への記入により適切な看護を受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	緊急時の入院先として市立病院との連携体制を整えている。。医療関係者との情報、相談にも努め、施設に戻れる場合は早期退院対応をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りを踏まえた契約を結ぶと共に安心して過ごしていただけるよう早い段階からご本人、ご家族様と話し合いを行い事業所で出来る事、出来ない事を十分に説明し方針を共有し看取りを行っている。	入居の際に看取りについて説明している。事業所での看取りを希望する場合には、出来る事、出来ない事を説明し、医師、訪問看護師と連携しながら対応している。職員は、勉強や研修を積みながらこれまでに20名余りの看取りを経験し、現在1名の看取りに取り組んでいる。早い段階から家族と話し合いをし、家族の希望に添いながら、利用者本人にとって1番良い方法を選択して支援している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：岩手高齢協ほっともとみや(2F)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護より、緊急連絡基準表をいただいている。夜間に慌てないように、日中から様子がおかしい場合は早めに連絡を入れ指示を受けている。救急対応についてもミーティング等で話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年シェイクアウトに参加している。防災マップは目の届く所に掲示してある。昼、夜の避難訓練を行い夜間の避難経路で危険な所の確認も行った。	年2回避難訓練を計画し、7月に水害を想定した訓練を実施した際には、市の指導で2階への垂直避難とした。9月には市全体で実施するシェイクアウト訓練にも参加している。2月には夜間想定で、2階からの出火を想定した避難訓練を計画している。冬場の訓練ということもあり、避難の仕方、方法を検討中としている。避難訓練の際には、大家、近隣の方々に協力を頂いている。	夜間想定訓練では、出来るだけ暮色時の時間帯に実施し、避難を通じて照明、利用者の服装、履物等の課題を抽出し、職員で話し合いを持ち「安全と安心」に向けてその解消に取り組まれる事を期待します。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの尊重、個々を理解しその方に合った声掛けや他者が居るところでは耳元で伝えたり、場所を変えて伝えたり配慮している。スタッフによって年齢や、性別でそれぞれのそれぞれに合った対応に努めている。	利用者は全員さん付けとしながら利用者一人一人に合わせた言葉掛けを行っている。特にプライバシーの尊重、個々の尊厳を守る事の大切さを全職員が認識して支援に努めている。また、トイレ、入浴時の羞恥心には特に配慮に努め、レクの際に自身の行動に不安を感じている方には側について声掛けをしながら、安心感を持って過ごしていただけるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の気持ちを尊重し、思いを伝えやすい雰囲気作りに努めている。レクリエーションでも、その方の好きな色、デザインを選んで頂いている。人によっては、クローズドクエスチョンを用いて選択出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースで生活していただいている。居室で塗り絵をしたり、TV鑑賞をしつろいだり、1日の過ごし方に自由があり、スタッフは見守り、安全でその人らしい暮らしが出来ている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協ほっともとみや(2F)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用しご本人が希望を伝えカットしてもらっている。洋服の購入も同行支援をしている。行事などのときは一段と出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には、希望の食事を提供。行事には手作りの豪華弁当で喜んでいただいている。季節ごとに柿の皮むきを一緒に行い干し柿作りをし召し上がって頂いた。筋力低下の方へ、器の大きさ、重さ、形など状態に応じた配慮をしている。	献立は職員が交代で作成し調理している。食材は買い出しやスーパーからの配達を利用している。日々の生活の中で、利用者に食べたい物の希望を聞き、メニューに取り入れ、誕生会は誕生者の食べたいものを提供している。行事食として、夏祭りにはバイキング、敬老会には手作りの豪華弁当、年越しにはお寿司、お正月にはお雑煮(餅を小さくしたもの)を提供し、喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の提供量を10とし、食事量・水分量を分かりやすくチャートへ記入している。状態や体調に応じミキサー食や、お粥の提供はいつでも行える様にしている。医師や、訪問看護への報告を利用者の病気の発見へも繋がった。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けを行いその方の状態に応じ、口腔スポンジや口腔ウェットティッシュでのケアも行っている。訪問歯科にチェックをしていただき指導をして頂いた。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の様子を日々観察することで、排泄パターンを知り、トイレ利用を促しオムツやリハビリパンツ、パッドの使用削減に努めている。	利用者の排泄パターンをチェックし、寝たきり以外の方はトイレ排泄を促し、誘導を行っている。誘導も言葉を選び、さりげない声掛けを心掛けている。1階では布パンツの方は1名、他の方はパット併用のリハビリパンツやオムツを使用し、人工肛門を付けている1名が夜間のみホータブルを使用している。2階はリハビリパンツ又はオムツを使用し、3名が夜間ホータブルを使用している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協ほっともとみや(2F)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	規則正しい生活を送ると共に排便チェック表の活用、水分摂取の促し。毎日のヨーグルトの提供、食事メニューへの工夫。運動の促しも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時は1対1での時間を大切にしながら、本人の可動域を考慮し安心安全に出来るようスタッフ2人対応での支援も行っている。	週2、3回の入浴となっている。入浴を嫌がる場合には無理強いをせず、変更したりして柔軟に対応している。重症の方には2人対応で入浴していたっている。入浴は、利用者にとって寛げる時間であり、職員とのコミュニケーションの取れる場にもなっている。入浴剤を入れたり、季節に合わせて柚子湯にするなど、楽しんでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に応じて対応している。日中、レクやモップ掛けなどで体を動かし、夜間はゆっくり休めて居る方もいる。年齢も考慮し休息の促しも行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報をファイリングしている。薬の目的や副作用・用法・用量についても理解し、体調変化時は訪問看護に連絡し、医師と連携し適切に支援出来ている。(薬剤師との連携も密に行っている。)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭き、モップ掛け、洗濯物たたみを一緒にに行っている。個々の希望を出来るだけ叶え、コーヒー、ジュース、大福、おはぎなどで気分転換していただいている。ご家族様から週1回の嗜好品の差し入れをして頂いている方も居る。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望の中でご家族様とのドライブの機会を設けてあげた。一緒にコーヒーを飲みに行ったり、洋服を階に行ったりし喜んで頂いている。ご家族様の協力の元外食等の支援をしている。	天気の良い日に日向ぼっこをしたり、市からマリーゴールドの鉢植えをいただき、オレンジガーデンとして水やりを日課として戸外に出て外気浴で楽しんでいる。春には県立美術館の桜を見学したり、大家さんの八重桜を見に出かけている。日々の生活の中で、近隣の衣類量販店に買い物に出かけたりしている。家族の協力を得てお墓参り、外食、ドライブなどを楽しんでもいただいている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協ほっともとみや(2F)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	元気を所持されている方は居るが、施設側で預かっている。ご家族様の了承を得て、外出時に食べたい物や、好きな物を自由に購入できるように支援を行った。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方は自由に連絡を取り合っている。希望する方にはスタッフが電話をし本人と話して頂くことが出来る。寝たきりの方や、遠方にいる娘様とLINEのTV電話で顔をみて頂いたり喜んで頂いた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今年度、各居室にエアコンを導入したことにより、温度、湿度調整が直ぐに出来るようになり、快適に過ごす事が出来ている。施設の壁には利用者様と一緒に作った季節の飾りを飾っている。	大家の協力により全居室にエアコンが設置され、快適に過ごせるようになっている。1階のリビングには、テーブル、ソファ、テレビ等があり、2階は天窓になっている。どちらも室内は明るく、壁には職員と利用者が一緒に製作した絵や、季節を感じさせられる「みずき団子」が1、2階共に飾られている。利用者は思い思いの場所で寛ぎながら時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1・2階は自由に行き来できる。居室でTVを観たり、休む事が出来る。リビングでは、食席を工夫したり、安心できる空間作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた布団や、好きなぬいぐるみ、ご家族のやお孫さんの写真、遺影を飾られたりしている。車いすや、杖歩行の方などへは、居室環境を整えている。	ベッド、クローゼット、棚、蓄熱暖房、エアコンが設置され、室温は適温に保たれている。テレビ、タンス、家族写真などの使い馴れたものを持ち込み、利用者の意向に添った配置の居室になっている。居室の表示は、個人名、花の名前等、希望に添ったものになっており、寝たきりの方の居室には、中が見えないよう長い暖簾が下げられ、プライバシーが保たれるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者1人1人が、今出来る事を理解し、1人で出来る事は促し声掛け、見守り、支援を行っている。		